

第 2 回 六甲山再生委員会

日時：平成 3 0 年 1 0 月 5 日

開会 午後 3 時 5 8 分

○事務局　それでは、定刻より少し早うございますけど、委員の皆様お越しいただきましたので、ただいまから、第 2 回六甲山再生委員会を開催させていただきます。本日はお忙しい中御出席いただきまして、ありがとうございます。私は、神戸市経済観光局観光 M I C E 部の安岡と申します。以後、着座にて進行させていただきます。

本委員会は六甲山再生委員会設置要綱第 9 条によりまして、本日は公開で進めさせていただきたいと考えてございます。円滑な議事進行への御協力をよろしくお願いいたします。また、当委員会は 3 月 2 7 日に第 1 回目を開催いたしまして、本日が第 2 回になってございます。この間、当委員会の部会といたしまして、企画事業部会、観光振興部会の 2 つの部会を設けまして、六甲山の活性化に向けてさまざまな議論を重ねていただきました。本当にありがとうございます。本日は六甲山再生委員会の第 2 回ということで、年度末に予定してございます第 3 回に向けての中間報告としての場でございます。

では、開会に当たりまして、当委員会の顧問でございます、井戸知事より御挨拶をお願いいたします。

○井戸知事　第 2 回の六甲山再生委員会が開催されましたことを、まず歓迎を申し上げますとともに、企画事業部会と観光振興部会で計 6 回も御議論を展開していただいたことに重ねて感謝を申し上げたいと存じます。ランドデザインが必要であるという認識をもとに、4 つのゾーンの将来像と実現方策を盛り込んだ原案を提示していただいたということは大変私自身も今後の取りまとめに当たって一つの方向性を出すという意味で歓迎をいたしております。その原案を私は拝見させていただいたのでありますが、率直な意見をまた申し上げさせていただきたいと思っております。まず、山全体のビジョンがどうしても必要だということです。土地利用計画も私は前から主

張しておりますように、要るのではないかと、まず結論から申し上げさせていただきます。国立公園の計画見直しで合意した六甲山ビジョンは都市山六甲という概念でありました。これは人と自然の関係とか、大都市と自然の近接性などの要素を含んだ言葉として、都市山という概念を出されてきたわけでありますが、私は六甲山の将来像を議論するときに、この都市山という概念をベースにきちっと議論をしていただく必要があるのではないかというふうに思っております。何を言いたいのかというと、六甲山は単に守るだけの山ではない。自然環境を保全すればいいという山ではない。六甲山という自然を人々がいかに親しく活用させていただくか。そして、私さらに言わせていただきますと、六甲山のすばらしさを我々だけではなくて、インバウンドの外国の方にもしっかりと味わっていただける、そういう拠点にぜひしていく、そのような意味でも都市山という概念がベースにないといけないのではないかということでもあります。ですから、単なる保全とかそれだけの概念でまとめていただくのはいかがかと。きっと、そうではないのでありますが、例えば祈りという言葉などは全体をとおしているわけではありませんけれども、いかにも守りにつながる。ですから、守りにつながるといような概念でまとめてしまうのはいかがかというふうに思っております。

それから、もう一つは各ゾーンの将来像を示されているわけですが、少なくとも施設エリアにつきましては、土地利用計画をしっかりとつくっておく必要があるのではないかと。整備方針を明らかにして、明確な整備方針をもとにどう、このエリア、このエリアはこの方向、このエリアはこの方向というゾーニングをしっかりと定めて、方向性を出すべきだと。抽象的にその当該エリアを規定するだけでは、民間の投資などを呼び込むなんてことはできません。

もう一つつけ加えさせていただくと、市長が同意すれば何でもできることに実を言うとなっているのですが、市長の同意というのはどういう基準で同意されるのかが全然見えない。裁量行政では動いていかないもので、ぜひ、同意基準というものを明確化

する必要がある。ということは、要は整備すべきところと整備しなくていいところと、整備すべきところだったら、こういうような要件を満たしていれば整備ができるんだという、そういう基準の明確化を図る必要がある。その基準を、例えばもし条例に位置づけるなら、条例に位置づける。条例でなければ、運用規則だとか、運用基準として告示をするというような、しっかりとした運用基準を明確にしていく、このことが必要だというふうに考えております。つまり、開発を促進するエリアと開発を促進しないエリアということを利用計画で、明確にしていかなければいけないのではないかと。そして開発を促進するエリアについては、少なくとも規制緩和をどこまでやるんだというようなことを明示していく必要があるのではないかと。私は特に集団施設地区は必ず土地利用計画をつくらないといけない。かなり詳細な土地利用計画をつくったほうが良いというふうに思っておりますので、ぜひ御理解をいただいたらありがたいと思います。

それから、もう一つはアクセスです。今、ケーブルの駅まで三宮とバスで結ぶというところで、実験していただいているわけですが、山上の施設間の回遊性というのをどうやって確保するのかというのも一つ重要なアクセスの課題だろうと思っております。バス、それからケーブル、ロープウェイ、道路、これらをどう組み合わせるとアクセスを確保するか。以前は表六甲のほうからの幾つ曲がりがあるのか私も覚えていませんが、ああいう道路というのは人気があったんです。今は余り人気がないんですね。ああいうふうにごるぐる、ぐるぐる回されると、アクセスとしてはいかがなのかという感じで評価されますので、裏からしっかり山上まで行く、そして、山上内の環状の回遊性のあるアクセスというのを組み合わせるといったようなことを考えていただいたらどうかというふうに思います。そのためには、総合的な対応としての必要性があるのではないかと考えているのです。

それから、部会でも自然の中で働く場というような意味での提言があったというふうにお聞きしておりますが、先日神戸青年会議所と六甲山の開発について議論をする

機会があったんですけれど、青年会議所のほうからは、企業研修の場として六甲山の特に保養所ですね、保養所を活用していったらどうかというような提言がありました。オフィスだとか、研修所だとか、ホテルだとか店舗といった施設の集積につきまして、これを改造したり、あるいは新設したりできるようなインセンティブをしっかりと用意してあげることが必要なのではないか、このように思っております。

そのような意味で、以前よりももっと六甲山が輝きを増すような、そのような方向づけをしっかりといただき、それを具体化するためにどうするかということをご議論いただくとうれしいなと、こういうふうにご議論いただくとうれしいなと、このように思っております。特に民間が進出しやすいような対応というのを御検討いただくとうれしい。そのためには、やっぱり土地利用計画が要る。ここは調整区域になっているのではなかったでしょうか。調整区域ですと、土地利用計画を事前に定めれば、その土地利用計画を前提にした包括的な開発許可を出すという制度、都市計画法で認められていますので、そのような意味でも土地利用計画をつくっておくということは、非常に民間の開発に対してインセンティブな効果があるということになりますので、そのような意味でも御検討もぜひしていただきますとうれしいなというふうにご議論しております。いつもこの会に来ると、言いたいことだけ言って、問題点だけ言って、それで課題を指摘して何とかしてくださいという宿題だけ出して挨拶しているようで恐縮でございますが、それだけ六甲山というのは神戸市、兵庫県のみならず、日本、いや世界の宝だという意味で位置づけておりますので、御理解をいただきましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。御挨拶とさせていただきます。

○事務局　　どうもありがとうございました。

続きまして、同じく当委員会の顧問でございます、久元市長に御挨拶よろしくお願ひいたします。

○久元市長　　第2回の六甲再生委員会にお忙しい中御出席をいただきまして、ありがとうございます。委員の皆様方には精力的に六甲山の再生のために議論に参加し

ていただいております、感謝を申し上げたいと思います。企画事業部会、観光振部会でも大変精力的に議論をしていただいていると承知をしております。

都市山としても六甲山の魅力を高めていくためには、非常に大きな課題となっているのが、規制緩和ということだと思います。乱開発につながらないような、土地利用計画というのをしっかりとつくって、そして適切な施設のリニューアル、または新設というものが行われていくためには、その規制緩和が合理的な姿で行わなければなりません。そういう意味で言いますと、今回環境省におかれまして、公園計画の変更を行っていただきましたということにつきましては、大変これは大きな一歩でありまして、感謝を申し上げたいと思います。

残るは今、知事のお話にもありました、この市街化調整区域に関する都市計画法上の規制のあり方です。このことにつきましては、開発許可の運用に関して平成13年に六甲山同意が定められていますが、これをより見直して、合理的なものにしていかなければなりません。既に部会におきまして、いろいろと検討がなされていると思えますけれども、ぜひ、その内容につきましては、とりわけ民間の事業者の皆様方、また、経済界から参画をしていただいている皆様方から見て、適切なものかどうかということにつきまして、しっかりとこれをごらんいただきたいというふうに思います。乱開発につながらないように、合理的なものでなければいけないということは当然ですが、今、井戸知事からお話がありましたように、市長同意でできるようになっているということで、お茶を濁してはいけないと、絶対はいけなしというふうに思います。やはり、誰が見てもわかりやすい、透明な、そして明確な基準でなければなりません。そういうふうになっているかどうかということにつきまして、ぜひ、民間の皆様方からこれをしっかりとごらんをいただいて、わかりやすいものになっているかどうかということもしっかりと検討をしていただきたいと思いますということを、これをお願いを申し上げたいと思います。

また、アクセスの問題ですけれども、三宮駅から摩耶山、六甲山に対して直行バス

が走っております。問題はこの直行バスの路線やあるいはダイヤについて、しっかりとした広報がなされているかということです。使いたい方々に対して適切な手段での情報提供というのが、ネットでもあるいは駅前でもしっかりとされているかどうかということが大事だと思いますので、これもいろいろと御意見をいただきたいと思えます。

あとは、この山上の回遊性ということにつきましては、これは、当然適切な交通手段を組み合わせるといことですが、同時にやはり自然の中でゆったりと時間を過ごしたいという方は、歩いて回遊をしたいというニーズもあります。歩道の整備が十分か。これは神戸市の責任の部分が大いわけですので、歩道、それから登山道、こういことにつきましての現状、これは最近大変台風の来襲とか豪雨とか、被害を受ける部分が大いので、これはすぐに対応できない部分があるということも事実ですけれども、やはり現状というものを不断にしっかりとチェックをして、登山をする方、歩いて六甲山上を回遊される方についても良好な関係をしていかなければいけないというふうに思えます。

もう一つは、六甲山上は余暇を楽しむ空間ですけれども、しかし、企業の研修とか、さらに進んでビジネスを興していくというような観点を全く入れるということができないのかどうかということも合わせて御論議をいただければというふうに思っております。

いろいろとお願いをして恐縮ですけれども、よろしく御審議をいただきますようお願いを申し上げます。感謝とお願いの御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局　それでは、進めたいと思えます。本日は学識関係者をはじめまして、経済界、事業者、地元の関係者の皆様や行政関係者の方々に委員として御出席をいただいております。本来であれば、お一人ずつ御紹介をさせていただくところではございますが、時間の都合上、まことに失礼ながらお手元に資料1、出席者名簿をお配りさ

せていただいておりますので、それをもちまして御紹介にかえさせていただきたい
と思います。また、ちょうど私の後方の席でございますが、本日は環境省、兵庫県、
神戸市のほうから関係部署の担当者が出席してございます。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。議事の進行につきましては、
当委員会の委員長でございます、長濱委員長にお願いしたいと思います。どうぞよろ
しくお願いいたします。

○長濱委員長　本日はお忙しい中、委員の方におかれましては御参集いただき、あ
りがとうございます。委員長を務めさせていただきます、神戸芸術工科大学の長濱で
す。本日はよろしくをお願いいたします。

今日で2回目の再生委員会ということでございますけれども、冒頭から割と論点か
ら盛り上がり、台風の目のように去っていったのですが、1回目、3月にさせてい
ただいて、2回目は本日にあります。少しお話にもありましたけれども、それまで委
員会のメンバーの方を中心に企画事業部会と観光振興部会、2つの部会、かなり回数
御議論いただき、今日の御報告の中で論点が中間報告としてまとまっている段階だ
と思います。いろいろ御指摘含めて御意見あると思いますので、それを皆さんで議論
できたらと思いますので、よろしく申し上げます。

まず、議事にもありますけれども、今年度実施しました六甲山のマーケティング調
査が一定まとまりましたので、その内容について改めて確認をしたいと思えます。

次に、六甲山ランドデザインとして、これが当委員会の取り組みの一番メーンで
すね、冒頭から議論になっているところだと思いますので、その現時点での取りま
とめをお示しさせていただいて、そのほかの取り組みについてもお話をさせていただく
という本日の流れになっておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。議事1の六甲山来訪者に関するマー
ケティング調査報告等の概要及び急行バス利用状況中間報告について、事務局よりお
願いいたします。

○事務局 お手元の資料3に基づきまして、御説明させていただきます。着座させていただきます。

六甲山における観光の現状や課題を把握し、今後どういうアクションを行っていくべきかを検討するため、六甲山来訪者に関する調査を行いました。中間取りまとめの結果をポイントを絞り御説明させていただきます。

まず、ページを開いていただきまして、1、2ページの見開きの部分でございます。先に2ページの右上、調査概要で急行バスの運行と合わせて7月から8月の6日間、週末もしくは平日にかけて六甲山上の各施設6カ所で調査をいたしました。日本人約1,130名、外国人約140名から回答を得ました。1ページ目の六甲山の来訪者像をごらんください。日本人は大阪府、兵庫県、神戸市からの来訪が多く、約8割が近畿からの来訪となっており、リピーターの多いことがわかります。外国人は中国、台湾、香港などアジアからの来訪者が8割を占めており、9割が初めての来訪となっております。六甲山を選んでいただいた理由としては、日本人は自然景観を楽しむ、動物と触れ合うことを目的に来られている方が多く、外国人の方はこれに加えて夜景やケーブルカー等の乗り物をアトラクションとして楽しむなど、複数目的での来訪が多くなってございます。

3ページをお開きください。六甲山での滞在について、日本人よりも外国人のほうが訪れた観光場所の数は多い状況です。消費金額も外国人のほうが多いですが、滞在時間は平均すると日本人よりも少ない状況となっております。

次のページにまいりまして、六甲山への要望をお伺いいたしました。まず、整備、改善要望ですが、日本人、外国人ともに交通アクセス、Wi-Fi環境の整備の要望が多く、これに加え、日本人は携帯電話の通信環境改善を、外国人については、案内ガイドが欲しいという御要望が多かったです。山上に欲しい施設、充実してほしいものについては、日本人、外国人とも洋式化も含めたトイレの整備、レストラン、食堂や休める場所が特に要望として高い割合となっております。

続きまして、その下が六甲山の満足度についてです。日本人、外国人とも満足、やや満足を合計すると9割の方が六甲山に来てよかったと認めていただいております。その下の推薦意向というのは、親しい友人や御家族にどの程度勧めたいと思うかをお聞きしております。グラフの様に10段階で評価をつけていただき、来訪者が六甲山に対して感じる信頼や愛着を数値化した指標でございます。日本人は20歳未満、20歳代の方が最も評価している割合が高く、外国人はアジア以外の方が最も評価している割合が高くなってございます。

続きまして、5ページをお開きください。六甲山以外の回遊についてですが、日本人は近郊からの来訪が多いため、六甲山以外への観光は少ない状況です。一方、外国人はほとんどが大阪、京都、三宮、元町など、他地域、他都市と周遊観光をされております。

6ページをごらんください。神戸市民の方に神戸市ネットモニターになっていただき、市政に対する御意見をお伺いする制度がございます。この神戸市ネットモニターに対し、アンケート調査を実施し、約3,400名の方に回答をいただきましたので、御報告させていただきます。4割の方が年に1回六甲山に来られ、7割が自家用車で来訪でございます。自然や景観を楽しむため、夜景を楽しむためや登山やドライブを目的に来られる方が多いです。

7ページにまいりまして、六甲山への要望です。麓の部分と山頂の交通アクセスの改善やイベントの実施を望まれる声が多く、山上に欲しい施設、もっと充実してほしいものをお聞きしたところ、先ほどの調査結果と同様レストラン、食堂、休憩室、トイレを望まれてございます。また、キャンプ、グランピングやハイキングの体験要望が多くなってございます。

8ページ、9ページではこの2つの調査結果から見た六甲山の強みをどう守っていくか、どう維持していくか、弱みについてはどう対策していくかの方向性を示してございます。強みとしてやはり自然が最も評価されています。六甲山の一番の魅力であ

る自然を守り、生かしていく必要がございます。また、六甲山のシンボルである眺望、夜景を維持していく必要があると考えております。

現在は日本人の観光客が中心ですが、今後さらに外国人来訪者が増加するに合わせて、多言語での案内やガイド配置など、海外からの来訪者にもより満足してもらえる対応が必要であると考えております。強みである自然保護と活性化のバランスが非常に重要と認識しております。

9 ページをお開きください。改善すべき点として、交通アクセスが上げられます。ケーブル等の運行時間の延長、急行バスの継続運行などのハード面と市民目線や観光客目線での交通結節点におけるわかりやすい案内といったソフト面との両方からの改善が必要であると考えております。道路空間につきましては、山上の回遊性促進のため、歩道整備や自動車の誘導方法の検討、公共交通の充実などが必要であると考えます。そして、山上での消費額を勘案すると、レストランやカフェ等の飲食を充実させることにより、滞在時間を長くし、消費してもらえる仕組みをつくる必要があると。また、トイレや通信環境の整備等を図ることにより、六甲山の魅力を高めることが必要であると考えております。

最後にこの六甲山の魅力を楽しみ方も合わせて情報発信し、多くの方に知っていただき、六甲山に来てもらい、愛着を持っていただきたいと考えてございます。10 ページの表は神戸市ネットモニターである神戸市民の方からの自由意見を項目ごとに整理して、抜粋いたしましたので、お時間のあるときにごらんいただければと思います。

続きまして、急行バスの利用状況について中間報告させていただきます。

資料4の1 ページをお開きください。三宮や新神戸から六甲山、摩耶山へのアクセス改善を目的として7月1日から11月末までの5カ月間急行バスを運行しております。7月、8月の利用者数の速報値ですが、7月の御利用は約2,600人、8月の御利用は約5,700人、7月から8月にかけてテレビなどメディア露出も増加しており、認知度が向上していること、また夏休み区間中ということもあり、利用者数が

増加してございます。特にお天気のいい週末の御利用が増加しております。9月の利用者数はまだ出ておりませんが、三連休などは夏休み期間以上に御利用いただいていると聞いてございます。次のページをごらんください。便別でございますが、行きの便では昼前の便、夕方、夜の便の利用が多い状況です。利用のバス停につきましては、行きは三ノ宮駅ターミナル前からの御利用が多く、4割が摩耶ケーブル、6割が六甲ケーブルで降りられております。

3ページをお開きください。7月から8月にかけて6日間急行バスの利用者や急行バス以外の利用者にアンケート調査を実施いたしました。急行バスの利用者は4割が神戸市民、1割は兵庫県民と半数の利用者が地元住民の方となっております。その次に、近畿以外の方が多く、そのうちの約半数が関東圏の方でございました。

最後に4ページの下のまとめですが、急行バスについては9月から11月の利用状況も踏まえ、今後の継続運行に向けて検討を進めてまいりたいと思います。報告は以上です。

○長濱委員長　ありがとうございます。2つ、両部会でも事前報告、中間報告があったときにマーケティングの話とバスの利用状況かと思えますけれども、何か少し御質問等あればございますか。よろしいですかね。マーケティングのほうについては、この短期間でサンプルも含めてかなり頑張っていたいただいて、つくっていただいたかと思えます。割とニーズですね、強み、弱み、改善を含めてニーズというのはある一定これで見えてくるのかなと思えます。この裏にシーズと呼ばれる、今現状を見てこういうアンケートをかけていますけれども、現状からイメージできないものというシーズみたいな可能性も一方で追っていく必要があるのかなと、掘り起こしという感じですね、みたいなものもあるかなと思っています。バスについてはアクセスというのが一番問題になっているので、その社会実験としてはすごくいい試みかなと思っています。こういうのは交通アクセスですので、かなり周知ですね、ネットでの経路検索に出てくるレベルにいかないとなかなか利用率というのは当然上がらないわけで、特に来訪者、

インバウンドの方というのはそれを頼りにしていますので、それにつながる実験かなと考えております。

いずれにせよ、貴重な調査結果ですので、今後の施策に生かしていければと思います。

○中瀬委員 資料3の8ページの下の方で外国人来訪者で来訪者の満足度は高く、特にアジア以外の方の評価が高い。すらっと書いてあるんですけど、何で高いのか、これをしっかりと考えていってもらわないといけないです。要は、自然感に対する価値観の違いだと思うんです。そこら辺をしっかりと背景を見た上で、これをやらないと、ヨーロッパ系、アジア系でどう違うのかというのはやっぱり、これは物すごく大事に見ていかないと、これからインバウンドのセールスやるときに、打ち方が変わってくると思います。ぜひそこらへん、議論しておいてください。

○長濱委員長 ライフスタイル、文化的な違いの中での捉え方の価値観が違うということもあるという感じですね。

○秋山兵庫県環境部長 大筋とは関係ないと思うんですけども、1ページの来訪者アンケート調査結果として、選択理由ですね。例えば、動物が日本人で26%、外国人で22%と出ているんですけど、外国人はともかく、日本人を見ると、右上の、2ページの上を見ると、アンケートをした場所が六甲山牧場ですね。六甲山牧場の行った人の比率化、26%なのかな、そんな気がしています。ですから、当然こういうのはアンケートをする場所によって、結果に大きく影響しますので、これが何と言いますか場所が当然限られたところでやっていますので、必ずしも全体を代表しているものではないという気がしていますので、そのへんは結果にどういう影響をするかわかりませんが、よく見ておく必要があるのかなと思います。そういう点では6ページですね、市民アンケートなんかのほうはそういう点では幅広く意見が集約できているのかなというふうに思います。以上です。

○長濱委員長 ありがとうございます。部会でも栗木先生ですかね、御指摘されて

いましたけれども、今、御指摘のとおり、アンケートのとり場所と、その傾向みたいなのが、やっぱりまだどうしても精査されていない状況じゃないかという御指摘もありましたので、その辺、引き続きされるのでしょうかから、少し、この、今とったデータの詳細の精査と今後どういうやり方をしていくとより確度の高いアンケート結果が得られるかなと思います。

ほかに御意見ありますか。よろしいでしょうか。

それでは、一番、本日のメインになると思います。皆さんの御意見というのを一番お聞かせ願いたいところです。

議事2ですね、六甲山ブランドデザイン案についてです。

お手元の資料5、カラー写真、神戸の山から海の写真がある、この資料5になります。企画事業部会を中心として六甲山を活性化させていく上で、目指すべき方向がまず要るだろうということに再度立ち戻って取りまとめたものです。そのときの部会でも当初六甲山、六甲山と一言で言ってもかなりゾーンの特性、エリアの特性が違いますので、まず4つのゾーン、六甲山、摩耶山、布引、再度山ゾーンに分けて、それぞれの目指すべき方向性を実現していくための方策、ビジョンと方策を整理したのが六甲山ブランドデザインとなります。お手元の資料5を見ていただきながら、事務局から内容についての説明をお願いできたらと思います。

○事務局　それでは、お手元の資料をごらんください。本日お配りさせていただいていますのは、先日の各事業部会において皆さんにごらんいただいた上で、その際にいただいた御意見であったり、この間も御議論を踏まえて修正を行ったものになってございます。今回は中間報告という位置づけでございますので、本日出された意見等を踏まえて、第3回に向けて利用したいと思っていますので、よろしく願いいたします。それでは、表紙のほうをめくって、1ページのほうをお開きください。1ページ目につきましては、六甲山のブランドデザインと4つに分けたゾーン、ビジョン、方向性ということになってございます。これにつきましては、実現するには課題があ

ったり、時間がかかるといったものがございしますが、それぞれの将来像として方向性を共通認識をしていくというもので整理したものでございます。六甲山再生委員会では当初六甲山、摩耶山を検討の中心にしておりましたが、布引周辺あるいは再度山周辺についても検討の中に加えるべきとの議論を踏まえまして、六甲山のランドデザインとしては、六甲山圏のうち、六甲山ゾーン、摩耶山ゾーン、布引ゾーン、再度山ゾーンの4つのゾーンからなるエリアとしてございます。それぞれのゾーンの特色を出して検討しながら全体として六甲山全体の目指すべき方向性としてランドデザインを構成するという構成になってございます。各ゾーンのビジョンについて、ポイントを絞って説明をさせていただきます。

まずは、六甲山ゾーンにつきましては、六甲山を象徴する景観と機能が集まる山上のヴィレッジとしております。やはり六甲山の中心として六甲山の自然に溶け込む魅力的な観光施設により、形成された町並みに加えて、アート空間にサテライトオフィスといった自然環境と一体となった、働く場といった新たな価値を創造する人々が集うにぎわいのゾーンとしてございます。六甲山全体の中心的なゾーンとしてまたにぎわいの中心的なゾーンとして活性化が強く期待されているゾーンかと思えます。次に、摩耶山ゾーンにつきましては、絶景と美しく静ひつな自然に抱かれた眺望と祈りの山上としてございます。摩耶山につきましては、掬星台からも眺望がミシュランのグリーンガイドの2つ星にも選ばれており、多く方に訪れていただいているということがあります。ただ、ミシュランにつきましても、夜景がというだけではございませんので、昼間の時間を含めたさらなるにぎわいが期待されるゾーンかと思えます。ただ、一方で摩耶山につきましては、市民の裏山であったり、信仰の山としても大切にされてきた山でもございますので、活性化、さらなるにぎわいづくりは必要だと思えますけれども、六甲山とは同じではない方向性での活性化が求められるゾーンとなっております。次に、布引ゾーンですけれども、山上の回遊という観点からは六甲山ゾーン、摩耶山ゾーンからは離れた位置にはございますが、布引につきましては、近年イ

ンバウンドの方が非常に増えているということもあり、新神戸駅のすぐ裏、市街地の延長線上にあると、そういった意味で非常にポテンシャルの高いゾーンだと思います。日本三大神滝に出会うナショナルパークのエントランスとして、布引の滝という場所があり、市街地の延長線上として国内の旅行者の方を引きつけるスポットとして取り組んでまいりたいと考えております。最後に、再度山ゾーンです。大自然に浸る癒やしと学びに満ちた山地。このゾーンにつきましては、かつて失われ、再生された貴重な自然と歴史を体感するエリアとして今ある環境をより伝えていこうと大切にしてもらいたいと考えております。そして、六甲山全体の目指すべき方向性として、人と自然が織りなす山上のオアシスとしてございます。この文章は前回から表現を変えているところであるんですけども、六甲山にはやはり自然を守ってほしいという御意見と、一方でよりよく価値を高めながら変化していく、活性化していくということが求められているエリアになってございます。守っていくものと変えていくもののバランスが大切だと思いますが、人の手と自然が織りなしていく姿ということで目指すべき方向性として掲げております。これにつきましては、全体に係る大切な部分でございますし、六甲山が見せるいろんな姿であったり、皆さんのいろんな思いといいますか、活性化にかける期待といったものがあろうかと思っておりますので、そういったものも踏まえながら、特にこの部分については御意見をいただいて、六甲山全体に係るものとしてふさわしいものにと考えておりますので、よろしく願いいたします。

では、ページのほうをおめくりください。2ページにつきましては、各ゾーンを地図上に落とし込んだものになってございます。ランドデザインの全体図としてこれまでいただいた御意見であったり、各ゾーンごとのビジョン等を踏まえながら、最終的にどういった形かというのがございますけれども、しっかりしたものにしてまいりたいと思います。また、左上に方策1、方策2とございますのは、各ゾーンに共通する取り組みとなってございます。目指すべき姿を実現していくための方策としております。方策1は保護の観点から、方策2は活性化の観点からまとめたものになってお

ります。特に方策2につきましては、六甲山の価値を高める活性化の取り組みとそのための規制の直しといったことが中心的なものかなと思っております。

2ページをおめくりください。3ページ以降につきましては、各ゾーンごとの目指すべき姿を実現するために、どのようなことを具体的に取組んでいくのかといったことをまとめたものになっております。各ビジョンごとに簡単ではございますが、説明させていただきます。六甲山ゾーンでは4つの方策を掲げております。1つ目が何度も訪れたいくなる仕組みづくりとして、アクセスの改善を、方策2といたしまして、おもてなし空間の創造として歩道の整備であったり、トイレの整備、キャッシュレス化といった来訪者の受け入れの環境の改善を図ることを方策としてございます。方策の3としましては、多様な楽しみを満喫できる機能を充実していくとしております。4つ目が自然の中で働く新たな価値を創造するということとしております。特にこの4につきましては、部会の中でもいろいろと御意見をいただいた部分だと思っております。六甲山の自然の中で働くといった新たな価値を創造するというので、具体的には現在取り組んでいる遊休施設の利活用をさらに促進していく、この間も御紹介いただいた653カフェであったり、来年秋開業予定の新たなホテル、こういった事例をさらに増やしていきたいと思っております。また、そのための遊休施設の所有者と参入意欲のある方のマッチングを行えたらと思っております。また、インターネットの通信環境の改善につきましては、先日の部会でも光ケーブルの必要性について御意見をいただいたところだと思っております。通信環境の改善に向けて検討をしてまいりたいと考えておりますが、やはり多くの経費が必要となることも当然ございますので、皆様方の御支援であったり、御協力いただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次のページをごらんください。次のページの摩耶山ゾーンでも4つの方策を掲げてございます。1つ目が摩耶山の魅力を磨くとして、受け入れ空間の整備を、方策の2が眺望を満喫する環境の整備として、夜景ではない眺望の魅力を発信していく。方策の3が歴史や自然を感じる空間の整備として六甲山牧場の再整備等を検討していき

いなと思っております。あるいは、摩耶の自然観察園であったり、摩耶山の天上寺との連携を図っていければと思っております。4つ目がやはりアクセスの改善、ここについても取り組む必要があるのかと思っております。

次のページをごらんください。次のページは布引ゾーンと再度山ゾーンでそれぞれ2つの方策を掲げてございます。布引ゾーンでは1つは市街地の延長線上としてその価値を高めること、2つ目としては国内外の観光客の受け入れ環境を整えることとしております。再度山ゾーンでは1つは再生された原生的な自然を将来に引き継ぐこと、あるいは2つ目として自然、歴史を体感する空間の整備の方策としてございます。

では、最後のページのほうをお開きいただけたらと思っております。最後のページは主要アクションプランの案としてございます。これにつきましては、各方策のロードマップ的な位置づけでございます。具体的な対応につきましては、最終報告に向けて今後突き詰めていきたいと思っておりますが、主要なものを並べてございます。例えば、左上の各ゾーンの共通するものとしまして、規制の見直しと言いますか、時代に合った活性化に向けての必要な見直しを検討している、あるいは六甲山、摩耶山ゾーン共通のものとしてアクセスの改善といったり、それぞれのゾーンへの取り組みを期待してございます。実施主体として、国、県、市、あるいは民間ということでおいておりますけれども、そこだけでなく、行政も努力しながら民間の活力もあってそういった中で六甲山全体の活性化が図っていければと思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

○長濱委員長　ありがとうございます。一番最後に御説明、6ページ目ですね、アクションプランというのを今立案していますけれども、ランドデザインが、ビジョンのほうなぜ要るかという、このアクションプランが暴走しないというか、統合させるように、実際はこのアクションプランで予算として実行していくわけなので、これが具体化していく案なんですけれども、その大きい方向性、オリエンテーションを決めるためには、4つゾーンに今分けておりますけれども、それぞれの方向性、ベ

クトルをビジョンを定めないと、アクションというのがなかなか有効に働かないという構成のグランドデザインという資料になっているかと思います。少し、今日これに対して御意見をいただくんですけれども、兵庫県さんのほうが資料をまとめていただいておりますので、右肩に兵庫県資料と四角で囲んである資料、A3一枚になるかと思います。井戸知事がかなり内容を説明されてやりにくいと思うんですけれども、少し解説というか、再度改めて御意見をできたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○水埜副委員長　兵庫県政策創生部長の水埜でございます。

昨年、第1回の会議のときはまちづくり部長としてオブザーバー参加させていただいておりました。今年から直接の担当になりましたので、よろしく願いいたします。先ほど委員長がおっしゃられたとおり、ほとんど知事がしゃべってしまったわけですが、資料に基づいてもう一回おさらいをさせていただきたいと思います。

1つ目のグランドデザインのタイトルなんですけれども、言葉の受け取り方かとは思いますが、オアシスという言葉の意味合いですけれども、私なんかは自然を守るというイメージが強く出ているのかなと思ひまして、それよりも公園計画で使いました都市山という言葉を使ったほうが人と自然の共生とか都市との近接性、にぎわいというイメージがより強く出ますので、そちらを六甲山ビジョンと踏襲して使っていくというのがあるのかなという意見でございます。2つ目は、各ゾーンの共通方策、これ2ページのところの表記では2つだけ、六甲山の資源を継承するということと、魅力の向上を図り、情報を発信する、この2つだけが共通方策になっておりまして、逆に6ページのアクションプランでは規制の緩和とかも共通になっているんですけれども、2ページのところからしっかりと一つは規制緩和、アンケートの結果でもそうなんですけれども、店舗とかレストランを増やしてほしいという要請がございます。そのためには民間投資を促進する必要もありますので、その投資促進のベースとなる保全と開発方針を明確にしてゾーニングを定めて、また知事が申しましたように、裁量

行政、個別に相談をして結果がわかるのではなくて、このエリアは何ができるということを示していくべきじゃないか。これは全ての全山にかかわる課題ではないかなと思います。

それと、もう一つ交通のアクセス、これもアンケート結果に出ておりましたけれども、今、ちょっと摩耶山のところだけで強調されているんですけども、これも全てのゾーンに共通する方策かなと思います。山上へのアクセスと山上間の回遊性を高める、こういったことを全体の方策として位置づければと思っております。あと、規制緩和、右のほうに書いてありますけれども、規制緩和についてはちょっと役所のほうで私ども兵庫県と神戸市さんの開発規制部局でちょっと詰めて何ができるかということをもっと深く検討をしていければどうかと思っております。

それと4と書いています、摩耶山の部分ですが、これもちょっとタイトルのイメージにはなるんですけども、祈りという言葉が入るとちょっと活力を高めるという方策からは弱くなるんじゃないかな、どちらかという、例示で書いておりますが、昼夜を楽しむ眺望空間、眺望を生かしてどんどん人に集まっていただくというイメージを打ち出すほうがいいのかという意見でございます。あと、再度山のところの癒やしという言葉を使うよりも、学びと体験をより強調したほうがいいのかと考えております。

下の土地利用計画のイメージなんですけれども、どんな施設をどこに誘導すべきかということ、このランドデザインの中でも意志を示したほうがいいのかと思います。右のほうにイメージ図を書いておられますけれども、ピークのところのような廃墟対策、景観改善を特に重視するエリアとか、ショップとかストリートのエリア、お店をたくさん立地誘導するエリア、それから、サテライトオフィスとかそういう企業の活動、機能を重視するエリアとか、そういったさまざまなゾーニングをイメージとして打ち出して、あと、具体的に何丁目何番地がどうですよといったようなものは行政の手続、都市計画法などの手続でまた来年度以降定めていったらいいのか

と思っております。先ほど知事が申しておりましたように、都市計画法上、特別指定区域というものを定めれば、いろんなことができる制度がございます。条例化しなければいけないんですけれども、そういう手続も含めて、具体化はまた来年度以降に行うとして、今年のこのグランドデザインの中でもある程度の方向性は書けるのかなという意見でございます。あと、ちょっと資料に書いておりませんが、インセンティブと知事は申しておりましたが、今、休眠状態の保養所の再生の補助金だけを行っておりますけれども、これからそういうところだけではなくて、新規立地とかも誘導するために補助は難しいかもしれませんが、規制緩和もそうですけれども、あと、制度融資、融資なんかも使って六甲山に投資をしていただくことを歓迎しているという意思を示していくべきかなと考えております。以上でございます。

○長濱委員長　ありがとうございます。多分、こういう御意見が出てくる背景に、都市計画区域の中の本格的な自然を町が自然を抱えている状況というところが恐らく背景にあって、一番目の都市山という考え方、概念、キーワードを冒頭に上げたらいだらうというのが割と象徴していると思うんですけれども、そもそも都市山というのは中瀬先生が神戸市の公園審議会で提唱された考え方で、それが神戸市公園側に落ちていっているかと思うんですけれども、少し全体の感想も含め、中瀬先生、都市山の考え方も含め、少し御意見いただけたら。

○中瀬委員　森林整備計画でしたかね、やっていたときに都市山。ちょうど六甲山の南麓部がこれだけ大都市と近接した里山というのが日本でも世界でもない。そういう意味では南麓部分はもっと新たな意味づけをする必要があるだろうということで都市山。北側を新しい里山、多分そういう議論された。なぜそういうことを申し上げたかといいますと、これは私たちの専門なんですけど、今、世界的には景観性と多様性という概念がすごくあります。それは眺望、こういうレクリエーション地も全てそうなんですけど、かつては景観性VS眺望性という、多様性という、そういう対立概念でやっていたのですが、景観性も多様性も内包した形をどうするのかと。例えば、具体

例で言いますと、環境省さんが眺望を確保するために、伐採ながら眺望をしながらよい森林をつくっていかうというような概念が今ずっときております。そういう意味では都市山という新たな、逆に都市山という言葉は一人走りしているのですが、逆にこれからさらに新たな意味づけをしていく時代に来たかなという気がするんです。そういう意味では、ある意味でいうと、日本の伝統的な奥山、里山、里地、里海、その中で新たな概念の都市山ということこれから我々は新しい概念でここ、六甲山を位置づけていくんだというようなことになってくると思います。最後に、ゾーニングの1ページの六甲山のランドデザインのところで、やはりある意味でいうと、自然と人工を対立概念で捉えるのでなくて、六甲山全体が自然が再生してくる。その自然を背景にしながらよい人工的な構造物が立地するんですよ、というふうな言葉をうまく書いていただけたらうれしいなという気がする。それと、摩耶山のところの裏山というのをさっき説明を聞きながら、えらい気になりました。ここら辺は落着いたはずなのに、まだ裏山が出てきたかなと。済みません、以上雑駁ですが。

○長濱委員長　ありがとうございます。都市山という考え方は簡単に言うと、里山の里と山という関係性、かつて生活の一部であった山との関係というのをもう一回神戸の中心市街地に置きかえてみると、その都市というのと山という関係性をもう一回見直してみよう、作り直してみようということです。それが、中身については多分議論ということがこれから必要で、そういう意味では大きく言うと、新しい里山というのをつくろうということだと思います。関係性、つき合い方ですよ。それもさっき言った市街化調整区域のああいいうエリアを考えたときに、市街地については町があって、その中に緑、公園があるというのと全く逆転しているという。公園がまず、国立公園がまずあって、その中に町的要素をどう入れていくかということのネガポジになっているのをいかにうまく兵庫県神戸市のエリアとして成り立たせるかということかだと思います。兵庫県さんからの御意見からいうと、そういうことであれば、もう少し保全とか開発のゾーニングというのももう一回シビアに見直して、新しいつき合い

方ということの観点で見直したりとか、当然人が訪れるということでしょうから、アクセスが要るよとかということをもう少し制度を突っ込んでやっていってはどうかという御意見かなと考えております。インセンティブの話もありますけれども、個人的にはインセンティブも重要ですが、一方ではそれが継続するかという、サステイナブルの考え方、これは自然というのがありますし、人の活動、民間さんのせっかく投資したものがずっと長らく続けられるかという、サステイナブルという概念も多分この中には必要なのかなと思っています。ちょっと委員長としては言い過ぎていますけれども。

ほかに皆さん何か御意見等、この委員会レベルで何か御意見等あればお聞かせ願えたらと思います。

○竹田委員　住吉学園の竹田でございます。六甲山のほうにはかなり土地は私ども所有しております、今、以前は保養所関係でかなりにぎわってございました、借りていただいております。今はほぼ半分以下に保養所も減ってしまって、閉館されております。これは別としましても、時代だから仕方がないかなということでございますが、いつも部会のほうでも言わせていただいておりますが、今、きょうも知事もおっしゃっていて、兵庫県の方もおっしゃっていましたが、今やっているランドデザインはこれはこれでいいと思うんですが、もっと将来的なものを見直して、大きなビジョンで考えていかないと、例えば、神戸市さんのほうでプロジェクトチームをつくるなり、コンサルタント業務を入れるなりして、六甲山をもう一回一から見直す、本当に都市山として見直すのであれば勉強も必要だと思うんですね。だから、世界の山を見に、勉強にいくとかいろいろ考えていただいて、本当に民間が魅力ある投資ができる山にしていかないといけないのではないかなと。ちょっと抽象的になりますが、我々は専門家ではないので、そういうふうな言葉しか出ませんが、私はそう思って、それにはお金も必要だろうと思うんです。やっぱり初期投資をしないと、民間は投資してくれませんよ、あと。それはやっぱり魅力あるデザインがあれば、民

間ももっと、もっと出てくれると思うんですけど。

○長濱委員長　ありがとうございます。神戸市さんだけでなく、兵庫県さんも含めてということかと思えます。環境省さんも含めて、プロジェクトチームが要るという御発言だったと思えます。ほかに何か御意見ありますか。

○中林委員　商工会議所の中林なんですけれども、長濱委員長おっしゃったように、我々も経済ビジョンの中では、六甲山の都市型リゾートとして位置づけているので、都市に近い山という概念がぜひともいいかなというのが一つですね。それと、一般論でありますけれども、どうしてもストック効果の高いものには何か投資を先にすべきだということで、例えば山頂のあるエリアについては、もっと開発型でいいのではないかと、例えば、上下水道であったり、電気であったり、そういうものをきちっと整備すれば、それは民間の投資に入ってくると。そういうエリアはある程度規定してもいいんじゃないかなというふうに思います。それから、神戸大の栗木先生がおっしゃっていたのですが、アクセスというのが大事だということなんですが、本当はトラフィックが大事だというふうに先生おっしゃっていて、そこも総合的な対策ということで表現を示させていただいています。やっぱりトータルとしての時間とものトラフィック、バスいっぱい乗り切ってもケーブルカーがもうそこでいっぱいですって。先般オリックスの宮内チェアマンも来られて、何か観光大使だと全部やられたんですけど、自分が生まれたころからのケーブルカー何も変わってないなということで、それでやっぱりトラフィックの意味をなさないと思いますので、そこは何か改善が必要かなと。それから、宮内チェアマンがおっしゃってましたのは、やっぱり眺望と言ったら本当は1億ドルの眺望だぐらいのことを本当は打ち出していいんじゃないかということでした。これは、御参考までに。以上です。

○長濱委員長　ありがとうございます。最初のほうのやつは、もうちょっと土地の使い方にめり張りつけてもいいんじゃないかということと、トラフィックというのは多様なアクセスであったり、ネットワークみたいなものの総合的なものがやっぱりして

必要だろうということかと思えます。

ほかに何か御意見あるでしょうか。よろしいでしょうか。

○宮西委員　六甲山観光と六推協の宮西です。グランドデザインのところの兵庫県さんの修正は、非常に何か腹に落ちるコメントが多いなと思って見てたんですけど、1つ質問なんですけど、六甲山ゾーンはそのまま兵庫県さんとしてはフィットしたって感じですか。我々としては、山上のヴィレッジっていう言葉が、やっぱりヴィレッジをどういうふうにとるかなんですけど、のんびりするようなイメージなのかですけど、いろんな体験したりアクティブに遊ぶ、特にいろんな経験ができたり、オルゴールミュージアムもそうですし、スノーパークもそうですし、あるいはフィールドアスレチックもそうなんですけど、そういったいろんな体験ができるゾーンがあるっていうことをそもそも知られてないっていうのは1つあって、それは我々自体の告知力が弱いっていうことが1つあるんですけど、そういったゾーンがあるよっていうことが1つの魅力になるのかなと。そういう意味では山上のアクティブゾーンなのか、アクティブエリアなのか、アクティブスポットなのか、何かわからないんですけど、いろんなことが体験したり経験したりできるゾーンであるっていうことをちょっと1つ六甲山ゾーンについては考えていったらいいのかなっていうふうに思っています。

それから、あと1番最後のスケジューリングのところ、6ページです。点線書きで、これは事務局のほうにお尋ねしたいんですけど、点線書きで書いてあるところっていうのは、実現また期間がちょっと見えないということで、点線なんですかね。例えば、これは普段からお話させていただいてるんであれなんですけど、インターネット通信環境の改善っていうのがね、インフラの整備を先にやることによって、いわゆる民間投資を呼び込むことができるっていうことがあるんですけど、インターネット環境がないところでどうやって企業が進出できるんだというようなことがあると思うんです。これは、観光客にとってもそうですよね。例えば、スマホで位置情報を見ようと思ってもできない。どんな施設があるかっていうのをなかなか確認できないとい

うようなことで、なかなか楽しもうと思っても難しいなっていうのがあります。それから、この中ではトイレ整備っていうのがありますが、1つはやっぱりこれ非常に難易度が高いと思うんですけど、やっぱり下水道の整備とか集中浄化槽とかいう形でやることによって、例えば山荘をリニューアルするときの投資が劇的に減るとか、あるいは、先ほど市長も言われてましたけど、歩道の整備の中でいわゆる一定ポイントの中でトイレを設置していくとか、そういったことができるのかなっていうふうに思いますので、その辺のどれを早くやるかっていうことについては、これから3月に向けてちょっとまた再度議論をさせていただきたいなというふうに思います。以上です。

○長濱委員長　　まずは、下線の意味っていうのは事務局どうですか。

○事務局　　最後まで22年度まで伸ばしてる分につきましては、22年度で終わりでなく、今後も続いていくという意味合いでございます。点線につきましては、実際にそれがどれぐらいの期間がかかるものであるであったり、ちょっとそういったものが現時点では少し見えてきていないなっていうのはございますので、検討していく中で決まってくるものかなと思っております。

○長濱委員長　　六甲山ゾーンについて、兵庫県さん何にか思われたところがあるかないかっていうのはちょっとあったんですけど、見ずに申しわけない。

○水埜副委員長　　もちろん中での議論では、このヴィレッジという言葉のちょっと弱いからもうちょっと都市的なネーミングのほうがええかなというのがあったんですけども、余りいっぱい指摘するのもいかがかなということで控えておりました。確かに山上にはたくさんいろんなアクティビティございますので、もっと東ねてPRしていくことも必要かと思えます。

○長濱委員長　　部会でも、特に六甲山ゾーンっていうのは1番議論の大きかったところですけども、一定ヴィレッジってつけているのは、当然アトラクション的なアクティビティっていうのも現状もありますし、そういうのも当然伸ばしていきながらですけど、もう少し僕の捉え方として生きたまちにしようということだと思えますね。

とはいえ、そんなにニュータウン的なことではなくて、イメージヨーロッパの山岳リゾートの本当の今現状である暮らしがあるような多分場所みたいなことにしようっていうのが、ヴィレッジっていう方は言い古されてるんですけども、多分部会で皆さん何となくずっといろんなワークショップ重ねましたけど、言われているのはそういうあたりの意味かなと。ネーミングは当然今後研ぎ澄ましていったらいいと思うんですけど、意味合いとしてはそういうところで、ほかの兵庫県さんが御指摘・御意見いただいているのに逆に近いようなことを六甲山ゾーンはしようということかなと思ってお聞きはしてたんですけど。少し時間が押しておりますけれども、ほかに御意見。

○小原委員　　済みません、神戸市の小原です。よろしくお願ひします。このグランドデザインでいろいろ議論いただけてるんですけども、どうしても行政的にグランドデザインっていうのは非常に先の長い、20年30年長期にわたってのイメージと、一方でアクションプランって目の前の部分というこの兼ね合いをどうやってもっていくかっていうことだと思っております。グランドデザインのほうは、やはり将来に向かって夢ある形を描いていかないといけないと思います。これは例えば、誰がどんな財源使ってなんて議論してたら何も進まない。これは少し時間かかって将来のイメージっていう形でいいんだらうと思うんです。アクションプランというのは、それをどうやって具現化していくかっていうのは実施主体が誰で、どんなお金使ってっていうことがやはりイメージされないとなかなか説得力がないということだらうと思います。そういう中で、今回バスの実証実験なんかもそうなんですけども、実際今でも来てもらえるのに取り逃がしてる人を呼び込む、こういうことでポテンシャル、知名度を上げていくっていうことが六甲山の活性化につながるということから取り組んでおるわけですから。言葉の表現はもう全然皆さんで御議論いただいてやっていったらいいと思うんですけども、後ほど六甲山上の土地利用のあり方また説明させていただきますが、神戸市としては、今できることは何でも取り組んでいこうという観点からいろいろと規制緩和も出そうとしております。一方で、当然環境省さん初め国のほうもいろ

いろいろ取り組んでいただいていますので、そのような動きが今後相乗効果を発揮して、このグランドデザインが達成されていくということなると思います。個々具体の話になると下水であるとかになりますと、誰がってという話になるとすぐ当然税っていう話になりがちだと思うんですけども、国なり県なり市で対応していける分について、今すぐっていうのは非常に難しいだろうと思います。ですので、グランドデザイン的に将来いろんな投資を呼び込むための投資という形の行政負担っていうのはあり得るんだと思いますが、アクションプランで言う分、それとちょっとごっちゃになると、もうグランドデザインとして描いてるから税で負担すべきだというふうになると、物すごく議論が輻輳してしまって前へ進まないのではないかなと思います。そこは少し分けるべきではないかなと思っております。

○長濱委員長　はい、1番はそうですね。御意見ありがとうございます。保全と開発って話なのかなと思います。保全というのは、長期的な資産を当然自然保護の観点含めてしていくっていうのがあって、それが多分グランドデザインです。開発っていうのは、比較的短期と言うかインバウンドみたいなキーワード言ってますけど、短期の効率を上げていくってことなんですけど、それが長期の資産を潰してしまうと意味がないってことにもつながっているんで、今回六甲山プロジェクトは、そのバランスをどうとっていくのかということです。長期ばかり見ていて、短期をそのままにしておくってのも伝えていきますし、逆に短期の投資にあんまり偏り過ぎて、長期的な資産を潰してしまうってのもよくないので、それはさっき言ったインセンティブとともに、継続性、持続性みたいなものも同時に図っていかないと、少し中心市街地とはやっぱり状況が違うってところはそこで、今多分委員が言われたのは、そこをちゃんと分けた上でリンクさせてどこまでやっていけるかという話かなということでお聞きして。1番このプロジェクト難しい部分なんですけど、でも必要な部分かと思います。

ほかに御意見。

○慈委員　　摩耶山再生の会の慈です。知事からも言われました、摩耶山のコピーと言いますか、これがいろいろ言われましたが、祈りってというのは、これ天上寺さんが入っているからそういうニュアンスで出たと思うんですけど、あと兵庫県さんの昼夜に楽しむ眺望空間。眺望空間にばしっと絞ってみたいなんできたんですけど、多分これ地元持っていったら怒られるパターンですね。うち眺望空間、展望台ちゃうでってというのはあると思います。六甲山にはいろいろ山があるんです。摩耶山ってというのは、今非常に市民活動が盛んな山になってまして、その辺があるフィールドみたいなところになってますんで、だから先ほど裏山、裏山ってというのはどうかなって、これ裏山言うたの僕だと思んですけども、ちょっと言葉が余りよくなかった。要は、暮らしの延長としてフィールドみたいな場所みたいな意味で裏山って使ったんですけど、それと離れると逆にヴィレッジってというのが摩耶山近いのかなと若干今思ったりもしたんです。要は、まちの人たちが上に上がっていろいろ活動するみたいな、ヴィレッジ的なイメージが逆に摩耶山のほうにあるのかなってというようなふうに思いました。なんせ今お話が結構、投資とか開発とか何か威勢のいい言葉ばかりになってまして、地道な活動っていうのも脈々とあるっていうのがちょっと何か盛り込んでいただけるようなランドデザインにしていただければなと思います。

○長濱委員長　　御指摘も、論点というか今言い方がそっちばかりになっていってしまうので、でもやっぱり部会でも当初はやっぱり市民の方がまず使ってる状況が六甲山でしょうから、歴史的に言ってもそうですし、そのライフスタイルをやっぱり大事にしながら、それをその状況をインバウンドの方、来訪された方が体験するっていうような構造にやっぱりするという事かなとは思っております。

○吉田委員　　都賀財産区管理会と言いまして、六甲山の南側のほうで、住吉学園さんの規模からいきますと100分の1ぐらいの規模で貸してるんですけど、それでもやっぱり今100件程度別荘とかというところで個人のお家で貸しております。その中でやっぱり保養所から個人住宅に変わっていつているか、個人の別荘に変わって

ってますけども、現在使われ方でやっぱりそこでもう居住をされているというか、別荘地の使い方じゃなくって居住にしてる方もいます。また、外国から六甲山に移り住んで住んでいる方等もいらっしゃいます。皆さん既に御存じですけども、ニセコなんかはオーストラリアの方が来て、そこのよさを発信する中で大変革を遂げましたけど、やっぱりそういう外国から移り住んだとか、外から来た方の意見というか、こっちに来て、いいから来るんですけども何がよくなって何が足りないかとか、そのあたりも少し調査をされたらどうかなと思います。また、六甲山でいきますと、例えば六甲山ホテルは八光自動車取得して今大改装しておりますし、それからあと、リゾートトラストが上でホテル等もつくっておりますし、そういう進出もしております。外から来る方の目というものが、今ここにいらっしゃる方はほとんど内部で、本当に内輪でよく見ていますけども、外からの目っていう視線も、その旅行者だけじゃなくって進出企業そして住まわれてる方、その辺についても1度調査をされてはいかがかなというふうには一点。それからもう一点、摩耶山の成り立ちは、やっぱり摩耶山天上寺、摩耶夫人像というところからそういう山の名前もつきましたし、また六甲山はブルームさんが保養所として開発をしていったというところから発展をしておりますので、その辺の歴史の大切に取り組んでいただきたいなというそういう思いでございます。

○長濱委員長　はい、ありがとうございます。最初のほうは、居留地・雑居地を持っていた神戸らしさみたいなのにつながっているなと思ってお聞きをしていました。慈委員からもありましたけど、眺望だけじゃないという話ですね。恐らくそういうそもそもお住まいにされている方含めて、眺望っていうだけではなくて、いかに眺望しながら何々をするっていうモードに恐らく次のライフスタイル的には入っていて、それを観光、来訪者とか少し半定住的な方含めて、自然をもっと享受するようなことっていうのが多分海外の人たちもやっぱりそれを面白い感じがしていて、そういう意味だから眺望は大事なんだけど、眺望だけではないというお話かなと思います。

ほかに御意見。

○寺本委員　　グランドデザインとアクションプランとされているのですが、私もちょっとようその違いもよくわからんのですけども、ここに書いてあることを、アクションプランのことを全部実行していったら本当ににぎわいのある六甲山になるのかしらと思って、何かちょっと不十分だなというふうに思います。やはり、ヨーロッパの山岳リゾートみたいになって言われますけど、そういうふうに考えるんだったら非常に物すごいにぎわいをつくっていかないといけないと思うんですけども、ビール1つ買うところもないような状態になっちゃってるのをどうやって歩いて観光客が、訪れた人が歩いて楽しいっていうようなにぎわいをつくっていくかっていうのは、物すごく難しいなと思います。何かやっぱりこういう仕掛けだけじゃなくて、こういうような形になっていけばいいというような青写真をとるか、そういうモデルみたいなものを指し示して、そういうものをつくってほしいということを民間に呼びかけるっていうところまでやらないと、規制緩和だけして待っているっていうんだったら、私ら生きてる間にはなかなかすばらしい六甲山にならないんじゃないかというふうに思います。それから、この土地利用のイメージって書いてあるイメージの図も、どういうふうな形かよくわからないんですけど、こないだオリックスの宮内さんも言っておられましたけど、神戸は非常に大きくなり過ぎてコンパクト化の時代と逆行してるっていうような。それで、あちらこちらが寂れているんじゃないかというふうにおっしゃってましたけど。この六甲山も非常に広いエリアにありまして、そのエリアをここはどうこう、あそこはどうこうというふうに言っていますが、もうちょっと絞り込んで狭いエリアをどう魅力的にするかと。あとのところはもう自然に任しとくとかいうか言うぐらいにしないと、お金もかかりますし、いろんな面でもそれを結ぶということも、いろんな地域を結ぶっていうことも具体的には非常に難しいと思うので、コンパクト化してそこで魅力を高めるっていうこともちょっと必要じゃないかなというふうに一段と思いました。

○長濱委員長　　ありがとうございます。お聞きしてて、都市山っていうところに多分

つながると思うんですけど、都市山自体は何も言ってないわけですよ、どんな状況かとか、新しいもう一回関係性をつくろうということだと思んですけども、そのときに委員おっしゃるように、みんな市民の方含めて具体的にどういう状況を恐らく目指してるのかというのが、像が享受されないと当然民間の方も動けないですから、多分そのあたりをもうちょっとやっぱり進化させていかないと、何となく言葉とかだけではなくて、具体的にどんな状況にあそこの山上をしていくのかということがやっぱり必要なかなと思ってお聞きしておりました。

ほかに御意見よろしいですか。はい、ちょっと時間も押しておりますので、事務局からも冒頭ありましたけども、本日たたき台を中間報告ということになってますので、年度末に向けてきょうの御意見を踏まえながらブラッシュアップしていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

では、少し駆け足で議事3ですね。公園計画の変更についてです。六甲山地区の公園計画の変更については、8月13日に告示されております。内容について改めて確認させていただくとともに、今後の動きについて御説明をお願いできたらと思います。説明については、環境省神戸自然保護官事務所、自然保護官の寺内様からお願いできたらと思いますので、よろしくをお願いします。

○寺内自然保護官 御紹介いただきました環境省神戸自然保護官事務所寺内でございます。私のほうから資料6に従いまして、公園計画の変更について御説明いたします。2ページ目のほう見ていただきまして、まず国立公園というのは、自然公園法という法律に基づいて指定されております。公園というからには、利用があって初めて公園であるというふうに考えておりまして、保護と利用というのは公園の管理運営、保護の両輪という形で考えております。

次のページに行きまして、国立公園の指定と公園計画ということですが、まずは保護のためのゾーニング、自然環境の状況に合わせた公園の規制の強弱ってこういうこと、地種区分ということにしてますが、それと利用のための施設配置。保護

した自然を楽しむということですね。この両輪について定めたものが公園計画ということでございます。めくっていただきまして、瀬戸内海国立公園六甲地域としましては、今回公園計画第4次点検という形で計画の変更の作業を行ったということになります。経緯としましては、ここに書いてありますとおり1936年に公園区域に編入されて、過去に公園計画の再検討、1次点検、2次点検、3次点検を得て今回4次点検と作業をしまして、8月13日に官報告示されたということでございます。この地域としましては、全般的な公園計画の見直しは34年ぶりということになります。

次のページ移りまして、今回の点検の狙いとしてしましては、六甲山の魅力を最大限発揮させることを目指し、六甲山らしい公園利用を推進するため必要な計画変更を行うということでございます。大きな変更としましては、集団施設地区の指定ということがありまして、六甲山集団施設地区と摩耶山集団施設地区、こちらを指定しております。その他は、整備の見込みのないなど既に指定されております公園計画と利用施設計画の削除と、利用実態に合わせたその他の変更ということになっております。

めくっていただきまして、六甲山集団施設地区の指定というところも、集団施設地区というのは、面的な利用計画。この公園の利用拠点として集団的に総合的に施設を整備する地区という位置づけでございます。これまでは、個別の利用施設計画が設定されていましたが、ここの集団施設地区指定によりまして、さらにこれに限らないさまざまな国立公園を利用するための整備が可能となるということでございます。例えば、休憩所事業というのがこれまで設定がなかったんですけども、休憩所事業これは公園利用者の飲食や休憩のための施設と位置づけられておりますが、例えばレストランだとかカフェだとかそういったものも、おのおの公園事業として実施できるということでございます。

次のページに行きまして、摩耶山集団施設地区の指定ということで、こちらにつきましては、掬星台とホテル・ド・摩耶とかですね、既に利用施設は幾つかあるんですけども、ここを集団施設地区としてさらに面的、統合的な利用拠点として整備をして

いこうということでございます。既存の保護規制につきまして、特別保護地区と第1種特別地域という非常に規制の厳しい区域になっておりました。ただ、実態としましては既に施設がありまして、原生的に保護すべき自然環境ではない、さらに今回集団施設地区を指定するというので、それに整合させた第2種特別地域という地種区分に変更するというを行っております。

最後のページ、次のページに行きまして、公園計画第4次点検に関連するこれまでの作業と今後の作業ということですが、これまで平成29年から具体的な作業を進めてきましたが、国立公園六甲山魅力向上プロジェクト推進委員会というのを設置しておりまして、その中で国立公園六甲山ビジョンというものを策定しております。あわせて、トレイル満喫プラン及び眺望満喫プランという公園の利用のソフト側の計画というものも検討しております。公園計画の点検、今回説明したとおりその作業がこれまでに終わってきたということでございます。

今後ですけれども、平成30年度から、まず今年度中にトレイル満喫プラン及び眺望満喫プランを作成する予定で作業をしております。次に、瀬戸内海国立公園六甲地域管理運営計画というのを策定する予定となっております。この管理運営計画というのは、言ってみれば公園計画がハードの計画ということになりましたら、こちらはソフトの計画ということになりまして、その中に記載されるのは、この公園区域のビジョン、管理運営方針、風致景観及び自然環境の保全に関する事項、適正な公園利用の推進に関する事項、公園事業及び行為許可の取り扱いに関する事項、国立公園関係者の連携体制等に関する事項というようなことが書き込まれる計画となっております。こちらにつきましても、本日御参加されてます皆様の御意見も伺いながら検討して作業をしていく所存でございます。この管理運営計画につきましては、2019年度をめどに作成予定ということで考えております。以上でございます。

○長濱委員長 御報告ありがとうございます。集団施設地区設置ということと、種別変更ということが、六甲山ランドデザインを考える上でもベースになるお話だっ

たと思います。最後おっしゃっていただけてますけど、再生委員会のこの議論もぜひ踏まえながら、六甲山の活性化につながる管理運営計画を策定をお願いできたらと思います。

○榎本委員 補足させていただいてもよろしいでしょうか。環境省近畿地方環境事務所の榎本でございます。公園計画の点検の実際については今担当の方から御説明をしたとおりでございますが、この点検を始めたきっかけとか大もとは、やはり現場での六甲山土地利活用PTでの議論を受けまして、六甲山の活性化について国立公園はどういうスタンス、あるいは貢献ができるのかと、どういうふうに公園管理をしていくのかというところを考えようということで始めて、推進委員会を設置して皆さんの御意見をいただきながら作業を進めてまいりました。先ほど兵庫県さんからの御提案で国立公園六甲山ビジョン踏襲してはどうかというような御意見もございましたけれども、国立公園六甲山ビジョンについては、「まちとつながり人が集うにぎわいの山都市山六甲」ということで御検討いただいて、作成をしているところです。今後、公園計画の点検が終わりましたので、今度は管理運営計画の策定に取りかかっていくわけですが、皆さん、やはり規制の点が一番気になさっている点だと思いますけれども、管理運営計画については、審査の基準というところを記載されている部分がございます。管理運営計画自体は地域の皆さんの御意見をいただきながら、つくってまいりますけれども、ここの審査の基準につきましては、行政手続法上も位置づけがされておりまして、非常に扱いが難しい部分ではあるんですけども、今回、集団施設地区を設置して、公園事業としてさまざまなものを受け入れるというか、可能性が広がってまいりましたので、特に管理運営計画の中では公園事業をどう扱っていくのか、というところをしっかりこちらからも御提案しつつ、皆様の意見をお聞きして検討を進めてまいりたいなと思っています。

また、兵庫県さんからは、保養所を公園事業として認めることができないのかというような御提案、というか御意見もいただいておりますので、こちらについては現在ホ

テルなどの宿泊施設の経営・運営が非常にいろんなタイプが出てきているということで、その所有と経営と運営、こういったものが分離されてきている例が非常に多いと。分譲ホテルとか会員制ホテルがその代表かと思うんですけども、そういった宿泊施設の多様化に伴って公園事業の宿泊施設というものもどういうふうに時代に合わせているのかというのは環境省でも議論が始まっておりまして、今年度後半には宿泊施設に公園事業として求められる宿泊施設の公平性、公益性等の整理が行われる予定になっております。管理計画につきましても、そういった本省での検討結果を踏まえて、今後中を検討していきたいというふうに考えていきます。

○長濱委員長　はい、補足説明ありがとうございます。そうですね、公園事業に次の議題にもありますが、公園事業にないほうですね。都市計画の開発行為のほうですかね、そっちの姿勢の話もあると思うんですけど、今のところ、公園事業の中で、これはだからダブルスタンダードにならないようにせっきやく国と県と市、下手したらトリプルスタンダードになるんですけど、それはやっぱりせっきやくこれのプロジェクトチームを3者でやっているの、そこをより調整をしていって、わかりやすいというか、ようなことになっていけばいいかなと思っております。

少し進行が悪くて大分時間が押しております。もう少しかかりますよね、これ、あと20分ぐらいですかね。最大30分ぐらいですかね。コンパクトにやっていきましょう。以降は割と報告事項が多いので。

では、次に議事4にまいりたいと思います。六甲山の土地利用のあり方についてということで、これも公園事業の認定を受けずに、今まで開発行為が認められていた中で、用途変更とか建てかえについては許可されてきたんですけども、要するに新築は六甲山同意との関係もありますけど、不許可になってたんですけども、その新築を認めていこうという見直しを進めていっているものです。詳細については事務局から説明をお願いいたします。

○事務局　詳細につきましては、前回御説明させていただいている分ですので、ポ

イントだけ絞って御説明させていただきます。

こちらのほうは公園事業ではなく、行為許可する場合の規制の見直しを考えてございます。そもそも公園事業では、現行ではできないもの、会員制ホテルであったり、企業の保養所等、現時点では公園事業ではできないので、許可をもらってということになるんですけれども、その場合には都市計画法の関係の規制がかかっていくことになります。冒頭の御挨拶の中にもありましたけれども、六甲山はほぼ全域が市街化調整区域ということになってございますので、さまざまな規制がかかってございます。本来であれば市街化調整区域ということになりますので、なかなか新たな事業をするということが難しいんですけれども、平成13年のときに六甲山地区における土地利用運用基準のというものを設けてございます。バブルがはじけた後で活用されない空いてるような施設が増えてきましたので、それを活用していくためということで六甲山地区の特殊な扱いということで、土地利用基準を設けてございます。

具体的な中身につきましては、括弧の中にございますように、六甲山での観光資源の有効な利用上必要である観光やにぎわいに資するものであると認められる場合には、(1)、(2)の行為を認めますよと、具体的には(1)につきましては既存の建築物、これまで保養所であったり、大学のセミナーハウス、そういったものをホテルとかレストランとか、そういった観光に資するものに用途を変更するということを認めましょうと。2つ目が建物の建てかえ、増築を認めましょうと。そういったことになってございますけれども、その太字で書いておりますように、ただし新設はできないということにこれまでなっております。新設は不可という点につきまして、この間部会の中でも御議論いただきまして、いわゆる公園事業であれば新築ができるのに、行為許可であったらできない。そういったこともございまして、非常にわかりにくいところの1つだったかと思っておりますけれども、そこについて新築ができるように見直しを進めてまいりたいと考えてございます。具体的には今後パブリックコメント等の段階を踏んでということになってきていますけれども、できれば年度内には、ある

いは来年度当初からという形のスケジュールで、進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

これによって先ほど環境省さんのほうも説明がございましたけれども、公園事業を一方でよりわかりやすく見直していくということに合わせて、行為許可につきましても市も連携しながら基準をいろいろと見直していきまして、民間活力の導入につなげていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

○長濱委員長 はい、ありがとうございます。規制緩和ということですが、さっき言ったダブルスタンダード、公園事業ではできるのにとこの規制緩和につながって、修正していくということかなと思ひます。これにつきましては、企画事業部会の中で議論し、見直す方向で検討進めていこうということになっておりますので、新築を許可できるというような見直しということで進めていきたいと思ひます。

では、続きまして、議事5ですね。六甲山の活性化に向けた相談窓口についての解説について事務局から説明をお願ひいたします。

○事務局 これにつきましても、前回部会の際に御案内させていただいたところですが、資料はございませんので口頭だけになります。このたび、県・市双方において、六甲山の活性化に向けた総合的な相談窓口をそれぞれ開設していきたいと思っております。窓口につきましては、神戸市においては私どもの経済観光局の観光MICE部観光企画課のほうに窓口のほうを設けたいと思っております。兵庫県におかれましては、現在最終調整中と伺っておりますので、決まりましたらまた改めて皆様にお伝えしたいと思っております。六甲山の活性化に向けて事業を考えておられる方の御相談いただく窓口として六甲山で新たに何かをやってみたいと考えられておられることにやってみようと思ってもらえるような窓口にしたいと思っております。わかりやすいパンフレット等を用意して説明をさせていただいたり、手続きをしていく中で、次に何をすればいいかだったり、漏れがあるかないかといったことについて寄り添った対応をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。ま

た窓口の開設に当たっては今年度は既に選定が終わっております、遊休施設等を利用した「賑わい創出事業」をしようという方に助成する制度ですけれども、それについて追加募集を実施いたしますので、そちらのほうもよろしく願いいたします。

○長濱委員長　ありがとうございます。この窓口については、水埜委員、兵庫県さんからも少しありましたけども、今後多分市と県ですね、調整しながら総合窓口を置いていくということかなと思います。

次に議事6、国立公園満喫プロジェクト展開事業についてということで、神戸観光局の塚口部長よりお願いいたします。

○塚口神戸観光局観光担当部長　今、御紹介に預かりました神戸観光局観光担当部長の塚口と申します。私は資料8に基づきまして、国立公園満喫プロジェクトにつきまして、簡単に御説明・御報告をさせていただきたいと考えております。

国立公園満喫プロジェクトにつきましては、資料8の頭のところにありますように、日本の国立公園について、ナショナルパークとしてブランド化し、インバウンド取り組み、これを展開することで2020年度までに1,000万人のインバウンド客を誘客しようということを目指した事業でございます。瀬戸内海国立公園六甲地域につきましては、平成29年度11月にこの展開事業に選定されておりました、現在神戸市と私が属しております神戸観光局が事業主体となりまして、平成29年度、平成30年度の2カ年で実施しております。具体的な取り組みについてなんですけれども、1平成29年度の取り組みでございますけれども、まず(1)でございますが、多言語トレイルマップを作成いたしました。英語・韓国語・中国語、中国語につきましては、繁体字・簡体字こちらはPDFのデータで作成いたしまして、ネット上で見れるようにしております。このうち英語版につきましては12,000部を印刷しまして、成田空港・関西国際空港・神戸市のインフォメーションセンター・新神戸の観光案内所・ホテル等に設置もしております。2番目でございますけれども、日本在住の外国人モニターを対象に六甲・摩耶の観光スポットをめぐるモニターツアーの実施を行い

ました。具体的にはスノーパーク、ガーデンテラス等の観光施設、また有馬温泉や灘五郷など周辺の観光地域の見学、掬星台からの夜景、天上寺の座禅、プチトレイルと六甲・摩耶ならではの体験をしていただき、貴重な意見を受け取りました。

平成30年度、どのような取り組みをしていくかというところでございますけれども、先ほどの貴重な御意見と成果を踏まえまして、六甲山の特徴を生かした魅力あるコンテンツの開発、そしてその販売に向けて準備をしているところでございます。コンテンツ開発につきましては、この再生委員会の観光振興部会、その中に設置しましたワーキンググループで山上の事業者さん等を含めまして意見をいろいろ頂戴しまして、インバウンドをターゲットとしたコンテンツづくりに向けて議論を重ねてきたところでございます。今、考えておりますコンテンツの具体的な例でいきますと、表の一番上でございますけれども、ミシュラングリーンガイド星めぐりツアーとしまして、高山植物園、天上寺、掬星台など、ミシュラングリーンガイドに掲載された山上のスポットをガイドつきでめぐるツアーとか、一番下ですと座禅と禅ヌードル、天上寺境内の案内、寺の歴史の解説、座禅体験、体験後は禅宗の精進料理と関係の深いはるさめを使ったスープ、これを禅ヌードルとして売り出して味わっていただくというようなプログラムを現在のところいろいろと開発中でございます。年内にこれらの旅行商品を実際に販売を開始したいと思っておりますし、旅行会社のさまざまなWeb等のツールを使いまして、海外に向けてのプロモーションも展開したいと考えております

以上、簡単ではございますけれども説明・御報告を終わります。

○長濱委員長 ありがとうございます。昨年度から今年度にかけてのソフト的なプロモーションの御報告だったかと思えます。

続きまして、議事の最後になります。今度は今の議事はソフト的ですけど、今度はハード的な取り組みですかね。議事7の六甲山の登山道の環境整備についてということで、神戸市建設局森林整備事務所の道木所長から説明をお願いいたします。

○道木森林整備事務所長 ただいま御紹介いただきました森林整備事務所の道木で

ございます。六甲山における登山道の環境整備につきまして、またインバウンド対応につきまして、私どもの取り組みを中心に御紹介させていただきたいと思っております。

六甲山での登山の魅力と書かれている2ページを目をごらんください。六甲山の魅力は何といたしましても町から距離が近いことです。さらにその近場にもかかわらず気軽なハイキングから本格的な岩場、トレッキング、毎日登山など、多種多様な魅力がございます。

3ページ目ですけれども、六甲山の特徴の1つが、網の目のようにはりめぐらされた登山道です。町に近く、入り口も数多くあることからこのようになってございます。細かいものを合わせると200とも300とも言われています。

次の4ページですけれども、森林整備事務所ではこのうち神戸市域の約60の登山道について日常の維持補修等を行っております。なお、広域自然歩道、近畿自然歩道は兵庫県さんが整備・管理されており、一部では私どもの管轄するこの登山道とも重なっている場所もございます。次の5ページのほうは4ページのうち特に布引周辺を拡大したものでございます。

6ページをごらんください。登山道の維持管理以外の私どもの業務としましては、森林の手入れですとか、森林病虫害対策など六甲山に点在します一部山林の管理のほかには市章山・錨山などの電飾、また再度公園内にある外国人墓地の管理なども行っております。

7ページ目、本日のテーマでございます登山道の維持管理では、人工林の間伐から発生した材を活用した階段やベンチ、案内標識の整備また登山道沿いのトイレの管理や整備なども行っております。

8ページ目ですが、今年は7月から特に大雨や台風が多く、現在もまだその修復に追われているところでございます。直営や請負で登山道の安全を確保したり、迂回路情報を現地やホームページなどで広報しております。また大規模な斜面災害を伴う場合は国や県など、関係各所に御対応を御協力お願いすることも多々ございます。

9 ページ目、先ほど神戸観光局さんのほうから御紹介ございましたパンフレットでありますが、今年の3月に国の補助をいただいて作成した六甲山トレイルマップでありますが、4カ国語で4コースを御案内、かつインバウンドに対応した環境整備を進めてまいります。

10 ページのほうでは、この4コースのうち特に欧米系の方も多い一番人気のコース、新神戸から布引の滝や貯水池を経て再度公園に出るコースを御紹介しております。昨年度から着手して現在、新神戸から布引の滝、貯水池、市ヶ原を抜けて再度公園までの道標等の整備がほぼ完了してまいります。今後その他の登山コースの準備、着手していきたいと考えています。着手の内容につきまして、次の11ページに書いてまいります。布引からのコースにつきましては、さまざまな団体がさまざまなデザインの看板や標識をこれまでに設置していることから、まずは市が設置するものからデザインを統一すること、また多言語表記することを目指して整備を進めております。次、12ページの道標でありますが、道標につきましては、従来の柱型、左側のほうでまいります。これは運搬や設置、また耐久性にはなかなか優れているんですけども、横文字表記には向かないということで、このインバウンドに人気の高いメインコースでは、矢羽根式にそろえて英語表記にしていこうとしてまいります。こちら右、真ん中の写真、柱の上部にある黄色いプレート、これは市の消防局が設置しています通称、命のプレートです。市内80以上のコースに約800個のプレートを取りつけてございまして、この黄色のプレートに刻まれた番号を伝えると、場所が特定できるという仕組みになってまいります。次のページでありますが、この案内図面、道標との3点セットとして重要と思われまうのが歴史や名称を伝える、説明板でまいります。こういった説明板については今後は単に今の日本語を訳するだけではなく、外国の方が見て興味を持てる外国人目線で作成していく必要があると感じてまいります。

最後14ページでありますが、最後に六甲山は身近な山ですが、やはり山ですのでけがをされる方、また道に迷い遭難される方などもいらっしゃいます。全国の政令

市の中でもこれほど広域の登山道の日常的な維持補修を担当する部署があるのは非常に珍しいことと言えますけども、今後もできるだけさまざまな人々がそれぞれの目的に合わせて、安全にそして快適に六甲山の登山を楽しめるよう登山道の環境整備に努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○長濱委員長　御報告ありがとうございます。冒頭の議論からいうとほっとする御報告やったと。

裏山と言い方をしてしまうとまた叱られるかもですけど、裏山感覚、身近な山という所以のところだと思います。冒頭からの議論というのは割と比較的トップダウン的なやり方で何とかしようということですけど、こういう登山道の整備というのはボトムアップ方式ですよ。身近なところを快適にしていって、その積み上げで海外の方にそれを開いていくという、両方が当然両輪で必要なもののもう一個の大きい局のほうですね、入り口に従い位置していただいているのかなと思いました。引き続き頑張ってくださいいいかなと思いました。

少し大幅時間がオーバーしてしまいまして申し訳ないです。以上で予定していた議事は終了しました。ありがとうございます。委員の皆様より何か御報告等ございましたらおっしゃっていただければと思いますけども、いかがですかね。大丈夫ですかね。

○宮西委員　報告ではないんですけど、先ほど寺本委員が言われた本当にこれをして六甲山が魅力的な山になるのかなという話だったんですけど、やっぱり環境整備だけじゃなくて民間としては、強力なコンテンツづくり、行ってみたいと思わせるようなもの、それは単にハードだけじゃなくて、市長も言われましたけど、歩いて楽しめる歩道とか、そういったことも含めて複合的にならないとだめやと思うんです。眺望は確かにすばらしいんですけど、眺望目的には上がってこない。絶対に。なので、やっぱり眺望良かったな、なんですけど、目的は別にあり、でも実際よかったのは眺望

みたいな形が本来の自然を楽しむ六甲山になるのかなという感じがしています。

○長濱委員長　そうですね。眺望というのは当然今もいいと思うんですけど、かといってそれが主目的になってたんですけど、こんだけ今いろんなものができるのと眺望というのはGoogle Earthまで含めて言うと、そんなにはやっぱり、それが主目的になるとは思わないです。眺望がよい場所で、どうリピートするかだと思います。単純に。もう一回行きたい場所をつくれるかどうかという、それが土地であれ、登山道であれ、持続的になるという、そのもう一回行きたい場所というのを僕らがやっぱりどういう姿というか風景像を抱いて指し示して行ってアクションにつなげていくのかということ、この再生委員会に終わらず、やっぱり議論していきながら可変的にアダプティブに変えて行って、やっぱりとにかくいい場所というカリピーター、もう一回海外から来たとしても、もう一回日本の六甲山に行ってみたいよねって言える場所に、それは官民含めてできるかというところの、もうすごくそういう意味ではポテンシャルの高い場所ということなのかなと思います。

済みません余計なことを言いましたけど、ともあれ次回の再生委員会に向けてまた部会でいろいろ宿題が多そうな気がしておりますけれども、きょう、本日すごく時間オーバーしましたが、すごくいい議論ができたのかなと、論点がはっきりし始めたんじゃないかなと思ってお聞きしております。そういう意味では御協力いろいろありがとうございました。それでは事務局に議事進行をお返しいたします。

○事務局　委員長、委員の皆様、本当に長い間ありがとうございました。お話がありましたように第3回に向けて、また部会等で御議論をさせていただきたいと思しますのでよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

閉会　午後　5時52分